

平成 27 年 3 月 31 日

平成26年度総合文化研究所研究助成報告書

研究の種類 (該当に○)	海外共同 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 共同研究 ・ 個人研究	
研究代表者氏名 所属職名	西田志穂 看護学部・専任講師	
研究課題名	専門教育科目「総合技術演習 (OSCE)」導入に向けたシナリオ開発	
研究分担者氏名	所属職名	役割分担
加藤令子	看護学部 教授	・教育方法論の構築 ・シナリオ案作成
研究期間	平成 26 年 4 月 1 日 ～ 平成 27 年 3 月 31 日	
海外共同研究を実施することになった経緯 (海外共同のみ)		
研究発表(印刷中も含む)雑誌および図書		

研究実績の概要（1）

1. 演習科目内容の点検および修正

平成 25 年度まで開講していた短期大学看護学科の「小児看護活動演習」の内容を点検して課題や修正点を明らかにした。これまでの方法では学生のレディネスに対して学ぶべき内容量が多いため、同様のコンテンツであっても学ぶべき本質を明確にすることが必要であることがわかり、單元ごとのデザインを洗練させて設定することにより、シンプルな方法で展開できることが明らかになった。平成 25 年度総合文化研究所研究助成「シミュレーション教育による小児看護学演習の展開とその評価：演習カリキュラム導入による教育効果の検討」（研究代表者：加藤令子）により、学習者である学生を主体としたディブリーフィングの重要性が明らかとなっている。これを受けて、有効なディブリーフィングが可能な単元の展開になるよう調整を行った。また、学生の学びが効果的になるように、全単元をクラス別にして展開する方向で調整を行った。これらの内容は、さらに、平成 27 年度前期の「小児看護学援助演習」にて展開し、修正の評価を行っていく予定である。

2. シナリオ作成コースへの参加

iSim-J (Improving Simulation Instructional Methods)に参加した。本コースは、Okinawa Clinical Simulation Center と University of Hawaii John A Burns School of Medicine Sim Tiki Simulation Center が主催し、平成 26 年 9 月 20 日（土）・9 月 21 日（日）の 2 日間、東京慈恵会医科大学（東京都）で開催された。本コースは、前年度参加した Fun Sim-J のアドバンスドコースの位置づけとしてデザインされており、シナリオデザインの概念と方法を学ぶことができた。プログラムは教育シナリオの設計と開発、評価に関する講義とグループワークによるシナリオ作成およびプレゼンテーションで構成されていた。Scenario Case Building Guide のフレームワークに沿ってグループで実践した。参加者は、医師・看護師・大学教員等であり、医療施設や医療者の教育機関におけるシミュレーション教育の位置づけとシナリオ作成の必要性と需要の高さが認識できた。専門領域や職種は異なるものの、学生の教育や現任者教育に携わる受講者とのグループワークにより、教育したい内容を具現化するプロセス、評価可能な形にしていく方法について具体的に把握することができた。これらの学びにより、これまでの教育内容、特に演習内容の洗練と具体化の方向性に大きな示唆を得ることができ、上記の科目内容の点検と修正に役立った。

3. 総合技術演習（OSCE）用シナリオ案

上記 iSim-J 受講時に使用した「シミュレーションデザインシート」を利用してシナリオ作成を試みた。平成 27 年度前期科目「小児看護学援助演習」で展開予定の技術について習熟を目指すことを基本的な目標とし、実習で出会う可能性のある様々な状況と発達段階との組み合わせをベースにして、「小児看護学援助演習」で用いる「到達目標」の項目を元に指導目標を設定した。同じ技術でも状況や患者に合せた応用力の習得を目指す状況再現トレーニングと位置づけ、援助演習での学びを実践につなげる役割が果たせることを期待した。ディブリーフィングは指導目標（＝学生の学習目標）に合せたガイドを用いるが、すべての内容を時間内に行うことは実際には難しい可能性があるため、事後学習での振り返りとも併せて実施した上で、今後、修正案を検討する予定である。